令和５年度　第１回瑞穂町地域保健福祉審議会

会議録

日時：令和５年７月２１日（金）
午後１時３０分～午後２時３５分
場所：瑞穂町役場４階　全員協議会室

会議次第

１　開会
２　会長あいさつ
３　議題
（１）瑞穂町第４次地域保健福祉計画の進捗状況について
４　その他
（１）第３期子ども・子育て支援事業計画策定に伴うニーズ調査の実施について（子育て応援課）
（２）義務教育就学児医療費助成事業の助成範囲の拡充について（子育て応援課）
５　閉会

出席者【委員】

村井委員	田中委員	鈴木委員	原委員	五十嵐委員
石川委員(会長)	中村委員	粕谷委員	小川委員	日野委員
森泉委員	石蔵委員	石井委員	川鍋委員	大井委員
小作委員	福島委員			

欠席者【委員】

小林委員	杉浦委員	海老原委員	飯田委員	渡部委員
竹中委員	小峰委員			

出席者【事務局】

田野福祉課長	小山福祉推進係長	一ノ瀬主事	若松障がい者支援係長
石川子育て応援課長	島﨑子育て支援係長	池田保育・幼稚園係長	宮澤児童館係長
吉岡子ども家庭支援センター係長	並木高齢者福祉課長	中村高齢者支援係長	和田施設改修担当主査
千葉地域包括ケア推進係長	鳥海介護支援係長	工藤健康課長	鈴木健康係長
榎本ワクチン接種事業担当主査	片野保健係長	池谷地域支援係長（社会福祉協議会）	

公開・非公開の別

公開

傍聴者

０名

会議録

１　開会

事務局より配布資料の確認。

（１）次第

（２）瑞穂町地域保健福祉審議会委員名簿

（３）資料１－１　瑞穂町第４次地域保健福祉計画の進捗状況

（４）資料１－２　瑞穂町第４次地域保健福祉計画の進捗状況（報告）

（５）令和４年度　第１回瑞穂町地域保健福祉審議会質疑等について

２　会長あいさつ

石川会長不在のため原副会長よりあいさつ。

３　議題

（１）瑞穂町第４次地域保健福祉計画の進捗状況について

福祉課長より、資料１－１　瑞穂町第４次地域保健福祉計画の進捗状況に沿って説明。

・地域交流、世代間交流の推進

・生活安定に向けた支援

・学校関係者等と連携した非行防止、学習支援

・発達障害等支援の充実

子育て応援課長より資料１－１　瑞穂町第４次地域保健福祉計画の進捗状況に沿って説明。

・子育て相談の充実

・待機児童の解消への取組と保育サービスの充実

・地域支援子育て支援事業の充実

高齢者福祉課長より資料１－１　瑞穂町第４次地域保健福祉計画の進捗状況に沿って説明。

・高齢者福祉センター寿楽の運営

・介護保険制度の適正な運営

・認知症対策の推進

健康課長より資料１－１　瑞穂町第４次地域保健福祉計画の進捗状況に沿って説明。

・切れ目のない妊産婦・乳幼児への保健対策事業の推進

・健康増進事業の推進

・感染症予防事業の推進

・健康危機発生時の体制づくり

質疑・意見

・評価指標　予防接種自動スケジュール作成モバイルサイト「わくわくみずほ」の０歳児の登録率

令和元年度：９６．１％→３年度：８５．５％→４年度：７４．８％

ニーズのある便利なツールだと思いますが、なぜ年々減少しているのでしょうか。

〈鈴木健康係長より回答〉

０歳児に送付する予防接種予診票へのチラシの同封、乳児家庭訪問時等、定期予防接種が開始される時期に合わせて、周知を行っています。当アプリ導入以降、このような周知を行っていますが、ご質問のとおり０歳児の登録率が減少している状況です。非常に便利なツールですので、チラシのレイアウト変更等も踏まえ、多くの方に登録していただけるよう、引き続き周知に努めてまいります。

・評価指標　妊婦の喫煙率

基準となる令和元年度の喫煙率が８．６％と高い割合になっています。

（目標：２０２４年０％）

（健やか親子２１（第二次）の指標では、２０１３年３．８％、２０１６年２．９％）

妊婦さんの喫煙率が高い状況は、若い頃からの喫煙習慣や家族に喫煙者がいた可能性が高く、今後も地域ぐるみで取り組んでいく必要性があると思います。

〈片野保健係長より回答〉

ご指摘のとおり町の妊婦の喫煙率は高い値となっていますが、妊婦に限らず、乳幼児のいる家庭における父・母それぞれの喫煙率も全国平均を上回っており、町全体で大きな課題になっています。特に妊娠時の喫煙は、胎児への影響が大きく、流産や早産のリスクが高まるので心配な状況です。これまでも妊婦面談時など、さまざまな場面で喫煙のリスクを伝えていますが、少しでも禁煙に向けての動きが進むよう、引き続き妊婦や乳幼児のいる家庭に指導・助言するとともに、喫煙のリスクについて周知に努めてまいります。

・１－（１）－②　地域における交流の場づくりの推進

取組内容の進捗状況「４」判定、効果判定「Ｃ」の場合は、評定は「５０」ではないでしょうか。

〈小山福祉推進係長より回答〉

委員のおっしゃる通りで、評定は「５０」となります。ご訂正お願いします。

・１－（１）－②　地域における交流の場づくりの推進

体操教室の立ち上げ支援を行い活動の定着支援を行っているとありますが、地域の交流の機会として、体操など何かを一緒にやるなど、気軽に誰でも参加できる場づくりを広めていけると良いと思います。健康づくりや孤立防止にもつながるので、広く周知し、声をかけて背中を押す支援を行うなど、地域で安定して運営できるように定着に向けた支援が大事だと思います。

〈社会福祉協議会　池谷地域支援係長より回答〉
　引き続き､介護予防のための取り組みや新たな通いの場の立ち上げや定着に向けて、住民の方への継続的な支援や連携を推進していきます。
・１－（３）－①　公共施設の利用促進
　取組内容の進捗状況「４」判定、効果判定「Ｃ」の場合は、評定は「５０」ではないでしょうか。
〈社会福祉協議会　池谷地域支援係長より回答〉
　ご指摘のとおり、取り組み内容の進捗状況３、効果判定はＢの場合は、評定６０となり、資料に記載のある評定７０は間違いでした。申し訳ありません。

・１－（４）－①　地域交流、世代間交流の推進
　効果判定が前年度「Ｃ」から「Ｂ」に上がっていますが、地域づくり補助金による支援によって、多世代間交流が活発化した内容（事例）を教えてほしいです。
〈協働推進課不在のため、事務局より回答〉
　令和３年度はコロナ禍のため、各町内会・自治会等は世代間交流等の活動が制限されていました。令和４年度も引き続きコロナ禍でしたが、各町内会・自治会は感染拡大防止策を徹底しながら、密にならない活動（納涼祭、ウオーキングイベント、ラジオ体操等）が積極的に行われました。コロナ禍以降は効果判定「Ｃ」評点「５０」でしたが、徐々に活動がコロナ禍以前に戻りつつあるため、効果判定及び評点を上げました。

・１－（５）－①　シルバー人材センターへの支援
・２－（３）－④　定年退職者などへの地域活動参加の機会と情報の提供
　生きがいや介護予防にシルバー人材センターの活動は、今後ますます必要となってくると思います。後期高齢者の増加や定年延長の影響で、会員確保の課題とともに、会員の平均年齢の上昇が予想されます。現状に合わせて活動を進めていく転換期にあると思います。会員の経験を活かせる活動を増やして、登録者の増加につながると良いと思います。
　たとえば、高齢者福祉課が実施している２日間の講習で簡単な家事援助サービスを実施できる制度に会員の方がたくさん登録されています。今後、ファミリーサポートセンターのように、会員制で「ちょこっと家事」のようなサービスを展開して、高齢者間で支えあう仕組みを作っていくことができると良いと思いました。
　瑞穂町には１，６００事業所があり、事業者の高齢化も進んでいるようです。会員の強みを活かして事業所のニーズに応えるような事業展開ができないものかと思います。働き手の確保が難しい現場もあるようです。（保安、建設、サービス職業、福祉施設）無理のない範囲で仕事を切り分けて安全に働くことができると良いのではないかと思います。マッチングをするところがあれば、活用できるのではないでしょうか。。
〈千葉地域包括ケア推進係長より回答〉
　３点の質問に対しまとめてお答えします。委員からのご意見のとおり、高齢者間で支えあう仕組み作りの構築を進める１つとして、「生活支援ヘルパー養成研修」を開催しています。現在、研修終了後に、新規にシルバー人材センターの会員登録をされる方もいらっしゃいます。また、シルバー人材センターの会員で、講座を受けてくださ

る方もいます。養成研修座終了後、より就労意欲のある方には、町内の訪問介護事業所とマッチングを行い、事業所の登録ヘルパーとして活躍いただいています。

・１－（６）－④　高齢者支援センター（地域包括支援センター）の充実

効果判定は「Ｃ」となっていますが、介護支援専門員の職能団体の立ち上げの取組は、一定の評価ができるのではないでしょうか。

〈千葉地域包括ケア推進係長より回答〉

一定の評価ができるとの意見をいただきありがとうございます。令和４年度は主に、職能団体とするための検討や各介護支援専門員から意見の聴取を行いました。令和５年度に職能団体として活動をし始め、現在経過を見ているところです。当初、町内居宅介護支援事業所の介護支援専門員、全員の登録希望を目標としていましたが、全員の登録希望とならなかったため、賛同を得られるような説明、連携が足りなかったと評価し、「Ｃ」判定としました。

・２－（１）－①　地域福祉の担い手の養成のための研究

前年度から評定が上がっていますが、他市の状況等の確認、視察、調査研究で、どのような成果・効果があったのでしょうか。

〈小山福祉推進係長より回答〉

先ほど、ページ１－２で質問がありました回答のとおり、評定は「５０」です。ご訂正お願いします。成果としては、他市では重層的支援体制の整備への移行準備の段階から補助を受けていることや役所全体で重層的支援体制を推進するため、各課の垣根を取り払い、ハード面、ソフト面で事業を洗いだすなど、町において事業を推進するにあたり、参考となる情報を得ることができました。現在、高齢者福祉課と社会福祉協議会とも支援体制の構築を目指し、準備を進めています。

・２－（１）－②　地域福祉の担い手の活動支援

前年度から評定が上がっていますが、他市の状況等の確認、視察、調査研究で、どのような成果・効果があったのでしょうか。

〈小山福祉推進係長より回答〉

先ほど、ページ１－２で質問がありました回答のとおり、評定は「50」です。ご訂正お願いします。成果としては、先ほどの 2-1 の回答と同様になります。

・３－（３）－④　地域防犯活動の推進

前年度から効果判定及び評点が上がっていますが、どのような活動が増えたのでしょうか。

〈協働推進課不在のため、事務局より回答〉

令和３年度はコロナ禍のため、各町内会・自治会における防犯パトロール活動等の防犯に関する取組は制限されていましたが、令和４年度は防犯パトロールに加え、防犯等に関する情報（チラシやポスター）を、町内の掲示板や町内会・自治会の回覧板で周知することで、防犯に関する取組が推進されました。コロナ禍以降は効果判定「Ｃ」評点「５０」でしたが、徐々に活動がコロナ禍以前に戻りつつあるため、効果判定及び評点を上げました。

・３－（３）－⑦　自立・生活安定に向けた支援

取組内容の進捗状況「４」判定、効果判定「Ｂ」の場合は、評定は「７０」ではないでしょうか。

〈社会福祉協議会　池谷地域支援係長より回答〉

ご指摘のとおり、取り組み内容の進捗状況「４」、効果判定「Ｂ」の場合は、評定「７０」となり、資料に記載のある評定「６０」は間違いでした。申し訳ありません。

・３－（３）－⑧　学校関係者等と連携した非行防止、学習支援

学びのテーマパークの取組は、社会で子供たちを見守り育てていく環境づくりにつながると思います。学びのテーマパークの実施状況と今後の課題を教えてください。

〈小林教育指導課長より回答〉

各小・中学校で、週１回ペースで実施しています。内容は、ノートまとめを含む自学自習、授業の補習、宿題、子供のニーズに応じた特別講座です。令和５年度から新規の取組として、小学校高学年の受講を希望する児童を対象に、元小学校長による算数教室「福ちゃん先生算数ピクニック」を始めました。地域学校協働本部を全校に設置し、一律一斉の取組を進めてきましたが、今後の課題としては、学校独自に漢字検定や英語検定に取り組むなど、各学校・地域の状況やニーズに応じて、地域コーディネーターの方を中心とした自治的・自発的な取組を促していきます。また、統括コーディネーターの設置に向け、人材発掘に努めていきます。

・３－（７）－①　地域包括ケアシステムの構築推進

「社会福祉協議会との連携をはかりました。」とありますが、取組の具体的な記述が必要だと思います。

〈小山福祉推進係長より回答〉

社会福祉協議会と連携して、成年後見制度の利用相談や権利擁護相談、福祉サービスの利用に際しての相談や役場他部署、西多摩くらしの相談センターなど様々な機関との連携を図り、苦情相談等の福祉サービスを実施しています。令和４年度の実績は権利擁護相談６０件、その他福祉サービス利用に関する専門相談２件、福祉総合相談１，８７９件です。

・４－（３）－①　救急医療体制の確保

取組内容の進捗状況「４」判定、効果判定「Ｂ」の場合は、評定は「７０」ではないでしょうか。

〈鈴木健康係長より回答〉

ご指摘のとおり、取組内容の進捗状況「４」、評価判定「Ｂ」の場合、評点は「７０」となります。記載誤りのため、評点を「７０」に修正いたします。

講評、アドバイス

村井委員より、全体的な講評、アドバイス。

全体を見させていただき、今回の素晴らしい点でもあり、今後の課題にもなるのですが、各課から報告をいただきましたが、令和３年度から令和４年度という形で定義されており、いわゆる第一象限から第三象限へと引き継がれて評価が行われ、その結果として、再度、課題が出てきており、ＰＤＣＡの評価ができる記述となっておりました。例えば、１－１２ページの上段では、令和３年度の課題として、「社会福祉協議会等関係団体と連携、協力し、地域交流をはかる必要があります。また多くの年齢層に周知します。多世代間交流事業の「おひさまキッチンは」は、新型コロナウイルスの状況を見ながら、実施する必要があります。」とありますが、ここでは「地域と交流をはかれたか」「多くの年齢層に周知ができたか」「対策しながらおひさまキッチンを実施できたか」が課題・目標となります。それを令和４年度の取組結果の後半部分の「ボランティア団体「おひさまキッチンの会」が多世代間交流事業として、朝食を一緒に食べる活動を支援しました。」に関しては、まさに新型コロナウイルスの状況を踏まえながらも、対策・実施し、しっかりと成果をあげています。そして、令和４年度の課題には、引き続き令和３年度に達成できなかった課題が残っています。どのような対策をしたのか等の具体的な記述があればさらに良かったと思いますが、ＰＤＣＡを回す仕組みになっていることは評価できると思います。このような視点で、今日お話ししていただいた内容を改めて再確認していただければと思います。

他の自治体の最新の情報として、評価方法について様々な自治体が工夫をし始めました。１つ目は、数字の目標が出せる場合は、数字の目標を設定することを徹底しています。しかし、「数字を設定すれば質が上がる」というわけではないので、その課題が数字を設定することが妥当なのであれば、数字の目標を設定していくということです。もう１つは、質的な部分の評価軸を検証し、入れ込み始めています。「来年度はこのような状態になっていることを目標とします。」のような、検証可能な状態像が言葉になるべく表されている表記をし始めました。今回の報告の中にもそのような表現もありましたので、さらに増やしていき、担当する側と確認する側が同じ視点で検証し、相互に理解・納得しながら、住民がそこに対してどのように参加できるのかということも併せて検討を進めていければ良いと思います。この評価方法は良いと思いますので、続けていくことが望ましいと思います。

４　その他

石川子育て応援課長より「第３期子ども・子育て支援事業計画策定に伴うニーズ調査の実施について」「義務教育就学児医療費助成事業の助成範囲の拡充について」報告。

事務局より今後の予定を連絡。

・令和５年度　第２回　令和６年３月２９日（金）　午後１時３０分から

５　閉会